

千年の森便り No.231

2023.1.25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

1月15日(日) 天候 曇

2023年最初の活動日、前日に降った雨で豊英島に向かう道路は濡れていましたが、活動中は雨に降られることもなく、曇り空の穏やかな1日を過ごすことができました。

年初めの活動は、恒例となったホコラ山にある祠への安全祈願のお参りです。参加者全員で森を眺めながらゆっくりとお参りしました。お参りのあと、午前中はコナラ伐採地で草原植生を維持するための刈り払い、チェーンソーの整備などを行いました。お昼には坂本さん提供の温かい汁ものをいただいて体を暖め、午後は植生保護柵の補修などを行って、午後3時ごろに解散しました。

ご参加のみなさま、お疲れさまでした。今年も安全第一で活動を続けていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、坂本、成沢、村野、森田、福島の会員9名でした。(福島)



ホコラ山の祠に全員でお参り



全員集合！

○コナラ伐採地の伐開作業

コナラ伐採地の伐開作業を午前中に行いました。作業の目的は低木草区画の草原化にあります。何度か伐開作業を行っていますが低木のコウヤボウキ、ナガバノコウヤボウキ等が繁茂し草本類が衰退してきているようです。伐開により草本類への日当たりを確保することで改善できるのではないかと考えています。伐開作業は草本類への影響を最小限にとどめるため、草木が活発に活動し始める前の今月に作業を実施することにしました。低木の根、宿根性の草本類の根を傷めないよう伐開の高さをある程度高くしての作業としました。また、カシ類の萌芽更新した枝、保護ネットの近くにあったモミ、カヤも除去し、日陰となる部分を少なくしました。低木と草が共存できることに期待をしています。作業道具は鎌、剪定ばさみ、刈込ばさみ、刈払機を使用して、伊藤さん、鶴沢さん、村野さん、森田さんと一緒に行いました。(秋元)



伐開作業中

伐開後

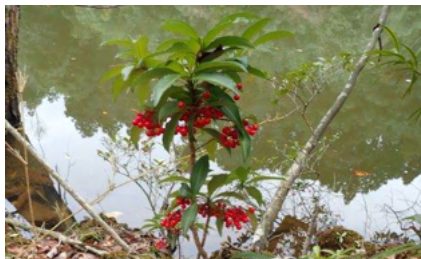
〇ちょっと気になった植物たち

彩りの少ない時期ですが印象に残った植物3種を写真に収めました。青い実つけていたのはジャンヒゲでコナラ伐採地の伐開作業中に見つけました。赤い実のマンリョウは遠目からでもよく認識でき島のあちらこちらで見られました。写真はホテイ岬先端部の岸辺で撮りました。紫の実のムラサキシキブで千年広場北側のなら枯れて開けた場所に実だけを付けていました。

新年のあいさつに向かったホコラ山では、山頂にあるネズ（ネズミサシ）の根元が荒れていて、根が地面から露出し幹が傾き今にも倒れそうな状況でした。北側の斜面では倒木により山頂が崩れかけています。今後の天候次第ではホコラ山の崩壊がより一層早く進むような気がします。（秋元）



ジャンヒゲ



マンリョウ



ムラサキシキブ



浮き上がったネズ（ネズミサシ）の根元



北側斜面の倒木による崩壊

〇正月はマンリョウで縁起担ぎ

祠山での安全祈願の後、千年広場へ戻る途中にマンリョウがありました。彩りの少ない冬に赤い実をつけるので、鑑賞用や縁起物として売られていて、庭園にも植えられますから珍しいものではありませんが、山野に自生のものは多くはありません。

物価上昇でやり繰りが厳しい昨今ですから、マンリョウに手を合わせたくになります。（坂本）

〇アセビの天下

南房総の山中で育った私にとってアセビは子供の頃から馴染み深い植物でした。その当時、花が目立つのは崖や林道脇が多く、高木の茂る山中では見かけませんでした。アセビは灌木ですから背の高い樹種に取り囲まれば日光の奪い合いに負けて、生きているのが精一杯となり花を咲かせる余裕が無かったのでしょう。

ところが近年の豊英島では成木も幼木も至る所にあって、ますます勢力を増しています。その理由の一つは2019年の台風による高木の被害、及びナラ枯れによるコナラの大量枯死で林床に届く日光が飛躍的に増加した事が挙げられます。もう一つの要因はシカに対して有毒成分を含む為、食害を免れている事です。

アセビにとっては願ってもない幸運の重なりに恵まれているので、沢山の蕾を付けた木があります。来月には白い花が枝先を覆って淡雪が積もったようになると思います。（坂本）



たくさんの蕾をつけたアセビ



咲き始めたアセビ

○初めて活動に参加しました

昨年5月に入会してから1度も参加する機会がなく、入会後はじめての参加です。ナラ枯れの被害のことや島へ渡ってくる鹿達による植物の食害の深刻さを、今回も豊英島を訪れ痛感しました。

まずは祠山へ新年の挨拶と安全祈願。ナラ枯れの倒木で潰されてしまったネット、垂れてしまったネット部分から鹿達に食べられてしまったであろう植物。数年経っても復活の兆しをみせない植物(スズタケなど)。

保護柵増設の話の時には「鹿達がストレスなく…」という言葉で話し合っていたことがとても印象に残りました。保護柵で守られた植物や守りきれずに少なくなってしまう植物。そしてナラ枯れで枯れた木を伐採した後の草地部分(草刈り中にイチヤクソウを見つけました)はこれからどうなっていくのか。これからも活動に参加し、観察していきたいと思いました。

何をお手伝いしたらよいかかわからず、ただただウロウロしていたような気もしますが(笑)

お昼には美味しく温かい汁物を頂き寒い体もほっこりしました。イズセンリョウにネズ(ネズミサシ)の木、それからタンキリマメ、その他にも沢山教えていただき今回も学び多い1日でした。(森田)



ネズ(ネズミサシ)



クロモジ



イズセンリョウ



キクラゲ

○三島神社に奉納

ほこら山の安全祈願の際にここ2,3年分のお賽銭を回収したところ、100円、50円、10年硬貨で合わせて1000円余ありました。

帰りがてら三島神社に納め、重ねて安全祈願をしました。棒術(ぼうじゅつ)や羯鼓舞(かっこまい)が奉納される祭礼には賑やかなこの場所もだれも居ませんでした、300年以上と言われる大杉が静かに見守ってくれました。(伊藤)

○植生保護柵の修理

千年の森に入るようになって暫くはあったアオキが徐々に減り始めた頃、鹿の植生被害からアオキを守るため柵を設置し始めました。最近、これらの柵が鹿の侵入や倒木の影響で傷んでしまったため、今回参加者全員で修理を行いました。

島の入り口にあるヤマユリを守るために設置した柵と、最近設置した柵とを比べると技術の違いがダントツに判ります。今回、全ての簡易修理を終えましたが、目につくところは最近の方法で綺麗で丈夫な柵に付け替えたいと思いました。例えば島の入り口、広場の所の柵から徐々に始めて増設の場所も含めて最近の方法で設置できればと思います。

朝からいつ雨が降ってもおかしくない一日でしたが降られずに終わっていい一日でした。(鶴沢)



三島神社



全員で植生保護柵の修理

○チェーンソーのメンテナンス

豊英島で、初めて自己で所有するチェーンソーの始動確認、目立てを行いました。このチェーンソーは、以前、義父が仕事で使用していたもので、それをおさがりとして頂いたものです。

チェーンソーはHITACHI(排気量：30 cc程度)のもので、現在は廃版のようですが、スパイクやガンマークも付いており、林業や里山活動の現場で使用するにも申し分ない機種だと思います。エンジンのかかり具合も問題なく、重量も軽めでとり回しやすかったです。

丸太を試し伐りした際には、伐れる速度が遅かったので、ソーチェーンの目立てを行いました。久々の目立て作業に手間取りましたが、ヤスリにガイドを付けて行くと作業がはかどりました。まだまだ技術不足のため、ヤスリがけの角度を体で覚えるまで、ガイドを使用しようと思います。(成沢)



譲り受けたチェーンソー



目立て後のソーチェーン

○ジビエの話

今回、アナグマのコンビーフ?を作り試食してもらいました。コンとは塩漬けのこと、ビーフは牛なので、本来はコンアナグマが正しいかと思います。

この頃ジビエがちょっとしたブームですが、秋に交通事故で死んだ狸とアナグマが手に入りました。死後硬直の状態でなかなか状態は良好でした。まずは腹を裂いて内臓を取り出します。寄生虫がいましたが死んで動きませんでした。次に足首から少しずつ皮を剥いていきます。そして前足、後ろ足、アバラとブロックに切り分けます。これを圧力鍋で30分ほど煮込み脂肪と筋、骨を取り筋肉を繊維にほぐします。塩を振り煮汁にゼラチンを溶かし、ほぐした筋肉に混ぜ冷蔵庫に入れて一晩おけばコンビーフになります。

レシピでは、肉を数日塩漬けにして10日程ワインに漬け込んでから圧力鍋で煮るようですが、圧力鍋で煮ると塩味が抜けてしまうので上記の様にしました。狸は臭みを取るためワインに漬け込むのが良いかと思います。ほんのりフルーツの香りがして臭みがなくなります。岩手県の大槌でも鹿のジビエが始まり、南房総でもキョンがうまいと評判です。毛皮は座布団がわりに、ぬいぐるみにして抱き猫にするといいかも。

SDGs(持続可能な開発目標)が流行していますが、ジビエはどのような関係があるのでしょうか?実は牛のゲップには温室効果ガスが多く含まれ温暖化に影響があるそうです。牛を食べるのを減らし、狸、アナグマ、鹿、イノシシを食べれば、その分CO₂が減るのでしょうか?固い、臭いが特徴のジビエは市場で売れるのでしょうか?そこで、筋肉の多いジビエをコンビーフにしました。軍隊で戦場食として人気が高く、日本兵はコンビーフを食べて絶賛したそうです。サラダ、サンドウィッチも好評です。非常食のローリングストックにも良いかも。ジビエは料理方法がカギです。(大原)



タヌキとアナグマの毛皮

お知らせ

○次回活動日は2月19日(日)です

年間計画では、冬の光環境調査、植生保護柵増設、危険木伐採が予定されていますが、今回の続きでヒメコマツ植栽地の植生保護柵の補修も必要なので活動内容を調整したいと思います。また、こんな活動を行いたいという希望がありましたらメーリングリストなどでお知らせください。

島内にはナラ枯れの枯死木が多数あるため、島に入る際は安全対策としてヘルメットの着用をお願いします。